



# 井の頭自然文化園

井の頭

吉祥寺

三鷹

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

16号  
2014年5・6月号

2014年(平成26年)5月1日

●編集・発行  
いのきちさん編集委員会  
編集長 川井信良  
東京都三鷹市上油倉 1-12-17  
株式会社文伸 気付  
電話 0422-60-2211  
FAX 0422-60-2200  
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力  
東京都西部公園緑地事務所  
東京都井の頭自然文化園  
井の頭恩賜公園100年実行委員会  
NPO 法人みたか都市観光協会  
社団法人武蔵野市観光機構

●制作支援  
株式会社文伸 / ぶんしん出版

井の頭恩賜公園  
開園100周年まで

あと3年

連載絵本 カモ次郎の巻 その3

善福寺池から井の頭池に戻って来たカモ次郎達は、鯉やブルーギルに占領されていた池が、小さな魚達の楽園になっているのに驚きました。「かいぼり」というもので池がどう変わるのか見届けようとして、神田川にかかるゆやけ橋の側にあるマコモの茂みに巣を作りました。桜が散り、公園に静けさがもたらした頃、マガモのガの子は5個の卵を産みました。

絵と文 せのうさこ

せのうさこ 1975年 盛岡市で生まれ。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。

INFORMATION 2014年5月~6月

## 井の頭自然文化園

●5月17日は、開園記念日! 無料開園日でみなさんをお待ちしております。  
・無料開園の日 …みどりの日(5月4日)・開園記念日(5月17日)  
・中学生無料の日 …こどもの日(5月5日)

●特設展「どうぶつのなまえ博覧会:Animal Name Expo2014」が始まりました。  
どんな動物にも名前は必ずついています。なぜ、その動物にその名前がついたのでしょうか? この特設展では、動物の名前の面白さや奥深さを探ります。

・会場:動物園(本園)資料館  
・会期:2014年12月28日(日)まで  
・時間:9時30分~16時30分

●春のクイズ&スタンプラリー「みんなヤーパーボニカ・スタンプラリー」を開催  
学名の一部に「japonica」といった日本に関連した学名がついている動物や植物を巡り、楽しく学べるクイズ&スタンプラリーです。

・会期:5月18日(日)まで

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

## 井の頭恩賜公園

ネイチャー☆プログラム 次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

●あおぞら実験室(井の頭池付近) 5月4日(日)、6月1日(日)  
●グリーンバード(井の頭池付近) 5月10日(土)、5月24日(土)、6月14日(土)、6月28日(土)

●ツリー☆マジック(第二公園) 5月10日(土)、5月11日(日)、5月24日(土)、6月7日(土)

●みんなでゴルフ(御殿山広場) 5月10日(土)  
●どんぐりひろば(御殿山ひろば) 5月15日(木)、6月5日(木)

その他  
●エリアウエスト(ステージ) 5月5日(月・祝)

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.i-np.jp/index.html

## 井の頭かんさつ会 満員御礼

●第109回「恒例!春の野鳥観察会」 5月10日(土) 8:00~10:00  
●第110回「クモ」 6月29日(日) 10:00~12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP http://www.kansatsukai.net/ に載せます。

## はな子の絵本がまたまた登場



『せかいでいちばん手がかるゾウ』  
教育評論社(税込1,512円)  
この1月に、絵本「ゾウのはな子~だからココにいるんだよ~」(ぶんしん出版)が発刊されましたが、今度は、井の頭自然文化園のデザイナー北村直子さんの絵と飼育担当をはじめとして園職員が文を書いたはな子の絵本が登場しました。はな子に一番身近に寄り添っている人々が描いた愛情あふれるはな子の物語です。

## アートマーケットと ファンアーティストの人々



器用にはさみを操る paper tripさん

### paper tripさん(切り絵作家)

黒の折紙から切り出されたpaper tripさんの切り絵は、繊細そのもの。ペン画と思って店先に近寄って来た人が一様に驚きます。

店番をしながら操るのは、先の尖った切り絵専用のはさみ。ちょさちよさと切るだけではなく、先で紙を突くように動かすと、小さな穴が開きます。

1つの作品にかかる時間は、30分~5時間ほど。「細かいですね。根気がありますね」とお客さんから声をかけられるたびに、「これはもう執念ですね」と笑って答えます。

蝶のような左右対称のモチーフなら折紙を二つ折りにして、そうではないものは下絵を写したトレーシングペーパーと重ねて切ります。もっとも緊張するのが、二重になった作品を開いていくとき。「絡まって手で切ってしまうのが一番悔しいです」から。手を清潔にし、さらさらに乾かしてから慎重に扱ひ、額装するまでは気が抜けないといいます。

著名な切り絵作家に憧れて、独学で勉強し始めて5年目。ハートやバラ、小鳥など、オリジナルデザインのモチーフに今日もはさみを入れています。

小田原 澯(おだわら みお)  
編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

アートマーケットは、主に土日祝日に開催しています。特例で5/1(木)、2(金)は開催いたします。



レース系を繙んだような繊細な作品

## 16 今月の はな子

はな子を放飼場に出す時間は、1年をとおして同じではありません。春から秋にかけては8時半、寒い冬の間は外気が暖まるのを待ち、開園時間にあわせて9時半としています。今年の冬は、雪もたくさん降って厳しいものでしたが、3月に入り、気候も安定してきました。そこで3月19日から出舎時間を8時半に早めています。寝室に戻るのは3時ですが、寒い日や雨の日は、はな子の様子をみて早めています。

はな子は今年67歳になりました。おかげさまで体調も安定しており、日本におけるゾウの長寿記録を日々、更新しています。

今年に入ってから現在までに、はな子に関する絵本が2冊出版されました。吉祥寺にあるフリースクール上田学園の学生さんたちが丹念な取材をもとに作られた「ゾウのはな子~だからココにいるんだよ~」(ぶんしん出版)と、井の頭自然文化園が文章を担当した「せかいでいちばん手がかるゾウ」(教育評論社)です。2冊の画風は異なりますが、ともにほのぼのとした絵が読者を楽しませてくれます。

(井の頭自然文化園 園長 成島悦雄)



## 井の頭公園の生き物たち

その16 ユスリカ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外來魚問題にも取り組む。(たなか としあき)

### ユスリカの一種のオス

## 小さな虫の大きな仕事

かいぼり後、冬ガモのキンクロハジロが、人にエサをねだらずに、盛んに潜水を繰り返すようになりました。彼らが探っていたのは、ユスリカの幼虫「赤虫」だと思えます。かいぼりで見つかった生き物のうち、まだ寒い3月や4月の初めに増えられるものはそれしか思いつきません。かいぼり前の調査で、井の頭池には底生動物が極端に少ないことが分かりました。その原因だった、大量のコイなどがかいぼりで一掃されたため、赤虫が増えたようです。実際、池畔や橋の上を舞っているユスリカの成虫がかいぼり前よりかなり増えました。

ユスリカは姿が蚊に似ていますが、属する科が違います。口器がないため人を刺すことはありません。オスは「蚊柱」を作ってメスを呼び込みます。何も食べないで繁殖し、羽化後ごく短期間(1~2日とも言われます)で生涯を終えます。幼虫は底生で、泥などで作る筒の中において、夜に出てきて生き物のかけらを食べます。蛹は泳ぐことができ、水面であつという間に羽化します。日本のユスリカは千種類ほど。冬に羽化する種類もいます。井の頭池でもユスリカが年中見られます。

小さくても栄養価が高く、他の生き物の重要な食糧です。井の頭池の魚もエビもカメも、トンボのヤゴなど水生昆虫も赤虫が大好きです。ツバメやコウモリやトンボは池の上を飛ぶ成虫を捕食し、カイツブリは水面に落ちたり岸辺の草などに止まっている成虫を拾って食べています。多くの生き物の命をユスリカが支えているのです。

ユスリカがしている大きな仕事もうひとつあります。池の有機物を食べて育った幼虫が成虫となって池を飛び出し、池の外の生き物に食べられたり、地上に落ちたりすれば、池の養分を外に運び出したこととなります。富栄養化を抑え池を浄化しているのです。たくさんユスリカが蚊柱を作っていると、口に入ったり目に入ったり、とても迷惑ですが、その大きな働きを考えて、ちょっと大目に見てあげましょう。

「赤虫」と呼ばれる幼虫

## 16 虫でできた卵

### カイツブリ通音

楽しい水に泳がせよう!

「楽園はよみがえるか!」

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカッパルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

かいぼりが終わる水が満ちると、オスはすぐにお茶の水池に帰還。やがてメスもやって来て、仲良く暮らし始めました。池に戻したモツゴやエビが繁殖する前に食べられては困ると心配しましたが、それらを捕るのを見たことはありません。彼らは水面や岸辺で、増えたユスリカなどの小さな虫を丹念に拾って暮らしています。連日デートを重ね、仲は最高潮、正式な交尾も目撃しました(雌雄対等なカイツブリには雌雄が逆になる「疑似交尾」もあります)。産卵するのは確実で、井の頭池では3年ぶりの朗報です。かいぼりの効果はてきめんですね。

とはいえ抱卵は交替制、餌を捕れる時間が半分に減ります。ヒナが誕生すれば、同じ時間にヒナの分まで捕らないといけません。ちっぽけな虫を必要な量集めるのはとても時間がかかります。池に小魚やエビが増えるまでは、安定した子育ては期待できません。とりあえず、カイツブリは虫だけで子育てできるのか、注目しましょう。

交尾後のダンス

井の頭かんさつ会 田中 利秋 http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/

# 井の頭恩賜公園の「恩賜」って何？

1917年5月に開園した井の頭恩賜公園は、今年で97周年。多くの人に親しまれている公園ですが、「恩賜公園」の名称の歴史的背景はあまり知られていないようです。「おんし」という読み方も難しく、「おんちゅう」「おんたま？」と首をかしげる人もいます。開園記念日を機に、その歴史を探ってみましょう。

公園の成り立ちがよく分かる『井の頭公園』  
(前島康彦著 / (財)東京都公園協会)



▲ かつての吉祥寺通り。今も『井の頭恩賜公園』の石碑は健在。

「恩賜公園」といえば、上野恩賜公園(江東区)も有名どころ。1873(明治6)年に浅草とともに最初の公園として整備され、博物館や美術館、動物園も含む東京筆頭の公園ですが、恩賜公園となったのは1924(大正13)年。恩賜公園第一号、井の頭の開園の7年後でした。

そして上野と同じ年に猿江恩賜公園(江東区)が、次いで1934(昭和9)年に有栖川恩賜公園(港区)が誕生し、都内にこれら4つの恩賜公園が今に受け継がれています。

そもそも皇室の御料地だった場所が公に恩賜されて整備されたのが「恩賜公園」です。4つそれぞれに歴史的な背景があり、特徴があります。

井の頭の場合は、もともと江戸の水道「神田上水」の水源だった井の頭池のある行政区画が、徳川幕府の瓦解後、武蔵県、「神奈川県」、「東京府」、そして「神奈川県」と三転三転したあげくに、1889(明治22)年の町村制施行で「東京府」に編入された経緯があります。一方、この年は大日本帝国憲法が公布された年でもあります。多くの官有林が御料地とされたのは、なるべく多くの皇室財産を国会の統制外にする政治的配慮が働いていたことでした。井の頭池周辺が御料地となったのも、やがて明治神宮の境内となる場所が御料地となったのも、この年のことでした。

「神田上水」は、1898(明治31)年に近代水道設備が整備されるまで水道として利用されていたので、井の頭一帯は水源涵養のために大切に保護されていた。御料地となつてからは、東京府に無償貸与されていたと推測されます。

そして、その御料地とされた井の頭一帯が公園になるにあたっては、重要な歴史的人物の働きかけがありました。それは誰なのか？どんな経緯があったのか？次号でお話ししましょう。

安田知代

安田知代(やすだ ともこ) 編集者・ライター。井の頭公園\*まるごとガイドブック『懐かしの吉祥寺 昭和29・40年』編者。

## 私と井の頭公園 その16

### いのけん公式問題集を 全てノートに書き写し学びました

渡邊安浩(三鷹市在住)

井の頭恩賜公園の2017年開園100周年を記念して、井の頭公園検定(通称いのけん)が始まったが、昨年12月の第2回いのけんで初めて1級試験が行われた。受験資格は2級合格者で、50問中40問以上の正解が求められ、解答のほとんどが記述式という難関試験である。その初めての1級試験に89人が受験し、10人が合格した。渡邊安浩さんは、全50問中46問正解で、一番目の成績で合格をした。

静岡大学工学部の卒業まで静岡県で過ごしたのですが、日本無線に就職が決まり、以来44年間日本無線です。住まいも海外勤務を除けばずっと三鷹市内です。『いのけん』は、そんな長い勤務が終了する頃、退職後夢中になるものを探していた時期に出会ったやりがいなのです。

1級の試験勉強は、まず公式問題解説集を全てノートに書き写し覚えしました。また、公園のマップを起し、出来事を地図に記して、位置と時代の移り変わりを確認しました。関係する書物もできるかぎり購入して調べ、最後は自分で試験問題を作って自分で解くこともしました。(笑)

実はそのころ行われた井の頭池の『かいほり隊』にも参加したのです。かいほり隊で学んだことや、1級の試験勉強で学んだことが、沢山のかいほり見学者への説明にとても役立ちました。そんな経験を通して、これだけ都会の中にあつて、生物の多様性を学べる井の頭公園はとても貴重であると思ひましたね。今後は、学んだ知識をさらに深めて、誘われた、みたか都市観光協会の企画委員など、地域の活動に参加して活かしたいと思っています。

(井の頭公園検定1級認定者 わたなべやすひろ)

(聞き手・写真・川井信良)



川井信良(かわいしんりょう) 70年代80年代に、三鷹で「ミニ」や「またんび」や「みたかさいたか」を売った。



写真 古賀 親宗(こが もとのり) 1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

### いのけん講座も決まりました。

今年はフィールドワーク講座が登場します。現地に行って学びましょう。

- いのけんフィールドワーク講座(3講座とも午前中を予定しています)
  - 8月3日(日)「井の頭自然文化園」、8月10日(日)「公園の歴史」、8月17日(日)「公園の生き物たち」
- いのけん3・2級講座……11月3日(祝)
- いのけん1級講座……11月9日(日)

### 第3回『いのけん』試験日と講座の日程が決まりました

#### 第3回『いのけん』の試験日が決まりました。

- 3・2級試験……12月7日(日)三鷹産業プラザ
  - 1級試験……12月14日(日)武蔵野商工会館
- ※共に午前・午後があります。

★試験日と講座につきましては、必ず『第3回いのけん募集要項』(2014年5月中に完成)で確認してください。みたか観光案内所(0422-40-5525)や武蔵野市観光機構(0422-23-5900)などに置いてあります。

### よみがえれ！井の頭池 16



▼モニタリングで、タモ網で水生生物を捕獲しているところ。

#### その後のモニタリング、継続して実施中！

1月から2月にかけて「かいほり」が実施されたお茶の水池とポート池、そして実施されなかった弁天池でも、月2回のモニタリングが行われています。

小型定置網を設置した各池の5ヶ所と、タモ網を使うお茶の水池で、網に掛かった生物を種類ごとにカウントするのです。

西部公園緑地事務所が核となり、『かいほり隊』のボランティアの方々も月2回参加。地元の『井の頭かんさつ会』のみならずも注ぎ深い観察とサポートを続けています。

「かいほり」では、在来生物を捕食してしまふ外来魚のブルーギルやオオクチバスがたくさん駆除されました。とはいえ、生き残っている外来魚が増殖していく可能性もあります。また、捕食する魚がいなくなることでザリガニが増えると言われています。これからどんな変化が見られるのでしょうか。目が離せません。

### 『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『いのきちさん』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発行された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の三「さん」を並べたものです。(奇数月1日の隔月発行です)



『いのきちさん』のホームページができました！更新中！  
<http://www.inokichisan.com/>



スマートフォン対応

『いのきちさん』の感想やお問合せはメールでも受付けています。

✉ [inokichi@bun-shin.co.jp](mailto:inokichi@bun-shin.co.jp)

『いのきちさん』を置いていただける所を募集しています。

